

2014 年第 52 号 2014 年 8 月 15 日
(通巻 第 1064 号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門 1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3435-8509

E-mail: kokusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

赤十字国際 NEWS

戦争の記憶を語りつぐ～殉職救護員慰霊碑・看護婦立像～

日本赤十字社（以下、日赤）の本社社屋（東京都港区）の前庭には、昭和 34 年の赤十字思想誕生 100 周年の際、イタリア大使を通じて贈られたソルフェリーノの丘の糸杉の木や、日赤創立 100 周年（昭和 52 年）を祝ってギリシャ赤十字社から贈られたヒポクラテスの木（医学の祖ヒポクラテスにちなんだスズカケの木の愛称）など赤十字ゆかりの木が立ち並んでいます。そんなみずみずしい緑の木々が生い茂る前庭の一角に、日赤の殉職救護員慰霊碑と看護婦立像が設置されています。日赤本社は毎年 8 月 15 日、この慰霊碑と立像への献花を行っています。



日赤本社前庭にある看護婦立像

この慰霊碑と看護婦立像は、日赤創立以来、いくつもの戦地や事変地あるいは災害の現場で救護活動に従事し、殉職した救護員の尊い犠牲を忘れず、その御霊を慰めるため、日本赤十字社創立 100 周年記念事業として昭和 52 年に建立されたものです。慰霊碑には明治 27 年の日清戦争から第二次世界大戦において戦時救護に服し、殉職した 1,317 人と、関東大震災や集中豪雨災害などの際の救護による殉職救護員 9 人の計 1,326 人の名簿と各人の功績を収録した「遺芳録」が納められています。

■ 世界の脚光を浴びた日赤の看護婦

日清戦争が始まる少し前、華族女学校の教師などを勤めた高山盈子（たやかまみつこ、1843～1903）は日赤の看護婦取締（現在の総婦長にあたる）に就任していましたが、開戦 2 日後の明治 27 年 8 月 3 日、彼女と 20 人の看護婦が第 1 班として広島の予備病院へ向かいしました。これが日本の職業看護婦の最初の従軍活動とされています。

明治 37 年には日露戦争が勃発。日清戦争の時とは異なり、日赤が明治 23 年から全国規模で養成を続けてきた看護婦は、その技能を十分に発揮するところまで成長を遂げていたといわれています。ロンドンで明治 42 年に開催された国際看護婦協会大会に日本から初めて参加した萩原タケは「日本の看護婦の特徴を一言で表すとすれば、それは“規律”です」と表現したといえます。その後、第一次世界大戦時に派遣された従軍看護婦たちは、語学に堪能で技術的にも優れ、その活躍ぶりは世界的にも脚光を浴びたということです。

■ 69 年目の終戦記念日を迎えて

しかしその後、昭和 12 年の日中戦争を皮切りに始まった第二次世界大戦で、従軍看護婦たちは苦難の道りを歩むことになります。昭和 12 年に限っても派遣された救護班は 149 班、計 3,573 人にのぼりましたが、数万人規模の負傷者を前に、十分な救護活動は展開できなかったとされています。そんな中、28 歳の若さで伝染病に倒れた宮崎まき婦長は、従軍看護婦の最初の殉職者となりました。

日赤が昭和 12 年から 20 年にかけて、国内外に派遣した医師、看護婦等で構成される救護班は 960 班 33,156 人に達し、その中には看護婦長 1,888 人、看護婦 29,562 人が含まれていました。しかし、終戦を迎えても国外から日本に帰還できない救護班や、国内の軍関係の病院で引き続き任務についた救護班は 340 班もありました。日本軍が崩壊した後も、従軍看護婦たちの戦争は終わっていませんでした。救護班要員の引き上げは昭和 30 年まで続き、殉職した日赤の要員は 1,187 名に及び、この大半は看護婦であるといわれています。



日赤本社前庭

今日 8 月 15 日は、戦後 69 年目の終戦記念日。戦争の記憶の継承が難しくなっているといわれる昨今、毎年恒例の献花は、埋もれつつある歴史を再発見する機会を私たちに与えてくれます。万緑とセミの声にあふれる 8 月、各地では多くの平和祈念行事が執り行われています。これを機に、戦争体験者の方がたの声に耳を傾けてみませんか？

頼まれて、戦争体験談を話すことがありますが、熱が入ると「そんなに戦争が好きか」と誤った質問が時にはあります。とんでもない。体験者だからこそ、戦争のおろかさ、平和の尊さを語り伝えねばならないのではないのでしょうか。

一元日赤従軍看護婦の会『日本赤十字従軍看護婦～戦場に捧げた青春～』より

※現在では「看護師」という呼称が一般的ですが、本稿では当時の時勢を反映してあえて「看護婦」という呼称を使用しています。

★日赤の様々な情報を配信中です！公式アカウントをぜひご登録ください★

Facebook:日本赤十字社

Twitter: 日本赤十字社@JRCS_PR